

第 23 回総合治水ワーキングチーム会議の協議結果

日 時 平成 18 年 2 月 15 日 (水) 13:30~21:15

場 所 西宮市大学交流センター

出席者 (委員) 松本(誠)、奥西、川谷、長峯、岡田、加藤、佐々木、田村、中川、
浅見、伊藤、草薙、酒井、谷田、土谷、山仲
(河川管理者) 田中、渡邊、松本、前川、西村、合田
(農林水産部) 福田、鶴崎 (河川整備課) 糟谷 (公園都市整備課) 松村
(事務局) 黒田、前田、植田

内 容(協議結果)

1 流域対策の検討(基本方針レベル)

前回 W T 会議で持ち越しとした「遊水地(農地活用)の効果量再試算」、「学校の効果量再試算」、「効果量再試算にむけてのため池の選定条件」および「駐車場貯留、棟間貯留等の資料収集状況」について、河川管理者から説明があった。これらを踏まえて協議した結果、次の事項を確認した。

遊水地(河川施設)については、委員から提案のあった複数の候補地において、技術的に貯留可能かどうかの検討を加えた上で、現実的に可能な範囲で最大限の面積、貯留量を確保したときの効果量を試算する。

学校については、青野ダム流域以外のすべての学校を対象にオフサイト貯留を行った場合の効果量の試算値を報告する。

ため池については、「青野ダム流域以外」、「満水面積5千 m^2 以上」、「流域面積0.1k m^2 以上」のため池を対象とし、オリフィスで水位を1m引き下げを前提に(嵩上げは対象としない)効果量を試算する。また、整備計画の対象選定の参考とするため、上記条件のため池のうち公共(県、市、財産区)所有となっているため池の効果量を試算する。

駐車場貯留、棟間貯留については、対象となる施設の総数等を把握することが困難であり、効果量も少ないと考えられることから、数値化するのではなく「基本方針盛り込み」とする。

その他の流域対策(水田、防災調整池等)については、継続協議とする。

2 河川対策の検討

河川管理者から「武庫川の流下能力評価」および「基本方針河道、整備計画河道の検討」について説明があり、協議した結果、次の事項を確認した。

河道対策(河床掘削、引堤等)の実施の可能性(引堤を実施する際の条件、課題等)を整理する。(基本方針、整備計画)

河川対策にかかる費用および河床掘削、引堤等による、環境、まちづくり等への影響を今後検討する。(基本方針、整備計画)

流域対策の分担量の検討と平行して、貯留施設および河道対策の分担量について検討する。貯留施設のうち、ダムでの分担、ダムの可否についても論点を明確にする。(基本方針、整備計画)

整備計画では、目標流量を絞り込んだ上で、具体的な整備箇所の検討を行う。(整備計画)

3 その他

(1) 次回以降の会議の協議事項

河道計画（論点整理）
防災調整池の数値化
ため池、水田の数値化
遊水地（「河川施設」、「結果として湛水地域」、「公共施設・都市施設」）の可能性及び数値化
利水ダムを活用
各戸貯留等の数値化

(2) 今後の日程（開催日時）

第24回 2月20日（月）13:30～
第25回 2月27日（月）14:00～
第26回 3月3日（金）16:30～20:30（終了後、運営委員会開催）
第27回 3月9日（木）13:30～